

Wesley Hall News



初等部入学式
(2006年4月)

青山学院スクール・モットー

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World

(新約聖書 マタイによる福音書 第5章13～16節より)

No. 92
2007.4.1.

特集 入学

説教「新しいことの芽生え」…………… 大島 カ… 2

●メッセージ

青山学院院長 …………… 深町 正信… 4

幼稚園 …………… 川島 祥子／松田 早苗… 5

初等部 …………… 池澤 祥子／ごうだりゆうせい… 6

中等部 …………… 加藤 敦／脇谷 新… 7

高等部 …………… 山田 徹／黒川 結… 8

女子短期大学 …………… 西願 広望／貴田 香織… 9

大学 …………… 武藤 元昭／山下 亮… 10

●キリスト教図書紹介 O・ヘンリ短編集(一)～(三) …………… 篠原 基… 11

●青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料 その19 氣賀 健生… 12

●私の教会 日本イエス・キリスト教団 東京若枝教会稲城伝道所 …… 加藤 幸… 14

●宗教センターだより …………… 15

説 教

「新しいことの芽生え」

イザヤ書43章16－20節

大 島 力

大学宗教部長



新しく青山学院に入学された方々に心からの歓迎の意を表します。また、新しい思いで新学期を迎えた在校生がさらに充実した学校生活を送れるように祈ります。

現在も小説家として活動し、また様々な文章を書いているノーベル賞作家大江健三郎氏が、比較的若い頃に書いた作品に『新しい人眼ざめよ』という書物があります。この本は大江氏が、その長男である光さんと共に生活する中から生まれてきたものです。脳に障害をもって生まれてきた光さんはその本の中では「イーヨー」という愛称で呼ばれています。そのイーヨー君との何気ない日常会話と、ウィリアム・ブレイクという詩人の言葉が深いところで呼応している味わいのある作品です。

例えば、イーヨーがある期間、養護学校の寄宿舎に入ることになった時のことです。わが子が初めて家族から離れて暮らすことに非常に心配している主人公（大江氏）に対してイーヨーは次のように語ります。「――寄宿舎に入る順番になりました！準備はできておりますか？ 来週の水曜日に入ることになっております。……しかし僕がいない間、パパは大丈夫でしょうか？ パパはこのピンチを、またよく切りぬけるでしょうか？」

確かに心配しているのは親である大江氏なのですが、逆にイーヨーのほうが親の心の動揺を直感してか、ユーモラスにそれを表現しています。このような会話がその小説には多く織り込まれています。そして、その子供との対話と、「再生」をテーマとするブレイクの詩が絶妙に響きあって読者の心を打つ物語となっています。大江氏はいろいろな困難を抱えながらも、イーヨーのような若い世代からまさに「新しい人」が誕生してくることを願いながら文章を綴っています。「眼ざめよ、おお、新時代の若者らよ！」このような言葉で始まるブレイクの言葉が最後に引用されています。

さて、この「新しい人」という言葉は四半世紀を経て大江氏のなかでその意味が深まりまた豊かになっていきました。そのことを典型的に示しているのが若い人々に向けて書かれた『「新しい人」の方へ』（2003年）というエッセイ集です。そこでは、この「新しい人」という言葉が新約聖書のエフェソの信徒への手紙との関わり合いで理解されています。大江氏はクリスチャンではないのですが、しかし聖書をよく読んでいて、そこに記されている「新しい人」という言葉と新鮮な出会いをしています。そして、その現代作家と聖書の言葉の出会いが極めて今日の意味を私たちに提示しています。

エフェソの信徒への手紙2章14－16節には次のように記されています。「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を減ばされました。」

ここに「新しい人」という言葉が出てきますが、もちろんそれはイエス・キリストのことを指し示しています。そして、この箇所はキリスト者にとって極めて本質的な信仰内容を示している箇所として大事にされてきている部分です。そのことを大江氏は十分に踏まえながらも、ここからもう少し広い意味を読み取っています。

「私は、なにより難しい対立のなかにある二つの間に、本当の和解をもたらす人として、『新しい人』を思い描いているのです。それも、いま私らの生きている世界に和解を作り出す『新しい人（たち）』となることをめざしていき続けて行く人、さらに自分の子供やその次の世代にまで、『新しい人（たち）』にイメージを手渡し続けて、その実現の望みを失わない人のことを、

私は思い描いています。」

このような「新しい人」の捉え方は今日、多くの人の共感を得るものではないかと思えます。2001年9月11日の同時多発テロ事件以降、世界は変わったと言われます。民族と民族との対立、宗教と宗教の対立、いやより深刻な形では同じ宗教の中での宗派間の対立が激化している現実の中で、今まさに「対立する二つの間」に和解をもたらす人々の登場が待たれ、また必要とされています。ディーター・ゼンクハースというドイツの政治学者によれば、今日の世界の問題は、固定観念化した「文明の衝突」ではなく、むしろ「諸文明の内なる衝突」であると言われています。つまり、民族・宗教・文明の違いがあるから世界に対立が生み出されているのではなく、一見同質と思われる集団や社会の中にこそ軋轢と衝突があり、それが問題の本質である。それゆえ、極めて身近なところから「対立する二つの間」を真実な方向に向けて克服していくことが必要とされているのです。例えば同じ歴史を歩んできた日本人の中で、「戦後民主主義」に対する評価が現在異なっています。そのような状況を踏まえて、真に個人の人格の尊厳を守り、人間の普遍的な価値に開かれた「新しい人」が生み出されていくことが問われています。

さて、イエス・キリストが生きた時代からさらに遡ること500年、紀元前6世紀のイスラエルにも同様の「内なる対立」がありました。そのころ古代イスラエルの民はバビロニア帝国の支配下にあり、主だった人々はその首都バビロンに抑留されていました（バビロン捕囚）。もちろん人々は皆捕囚状態からの解放を願っていました。しかしそれが半世紀にも亘ったので、もう諦めてしまって、かつての救いの出来事である出エジプトのことを持ち出しては、「昔はよかった。でももう神は働いて下さらない。実際、モーセのような人物はいない」と嘆く人々が多かったのです。イザヤ書43章16－17節にはそのような声が反映しています。「海の中に道を通し、恐るべき水の中に通路を開かれた方」はもういない、という意味の言葉が続いています。

しかし、そのような人々に対して、後ろ向きに「救いの出来事」を思い出すことからは何も生み出されないと考える人々もいました。その代表的人物がイザヤ書40章以下を書いた「第二イザヤ」と呼ばれる預言者でした。この預言者は人々から反発されることを恐れず大胆にも「初めからのことを思いだすな。昔のことを思いめぐらすな」と語りました。つまり過去の「出エジプト」のことを思い起こすなと語ったのです。そして、神はまさに「新しいこと」を近

い未来になしてくださるという約束を語りました。それが、43章19－20節の神の言葉です。

「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。あなたがたはそれを悟らないのか。わたしは荒れ野に道を敷き、砂漠に大河を流れさせる。野の獣、山犬や駝鳥もわたしをあがめる。荒れ野に水を、砂漠に大河を流れさせ、わたしの選んだ民に水を飲ませるからだ。」

これはかつての「出エジプト」と同様の、いやそれ以上の救いの出来事が起こりつつあるという励ましの言葉です。特に「砂漠に大河が流れる」というのは全く新しいヴィジョンです。それは、もう諦めてしまってバビロンでの日常生活に埋没し、その文化に同化しようとしている人々に対する批判です。その現状を憂い第二イザヤは「もう一つの道」を示し、イスラエルの人々に何とか再生の希望があることを伝えようとしたのです。

ここには発想の転換が明確に示されています。すなわち、過去に起きた「出エジプト」という出来事は確かに神による救いの業であった、またそれを「思い起こす」ことは必ずしも間違いではないであろう。しかし、問題はその「思い起こし方」である。過去に救いの業をなして下さった神は、過去とは全く正反対の方向から、つまり未来の方向から「新しいことを行おう」として今、わたしたちのところに近づいてきてくださっている、そのことに気がついてほしいというのです。そして未来から「新しい出来事」が現在の私たちに訪れようとしていることを信じられるとき、わたしたちは真に「新しい人」になることができるのではないか。第二イザヤはそのような「新しい人々」が増えていくことを切に願って神の言葉を伝えていきます。そのことをわたしたちは、この聖書の箇所から学び取りたいと思います。

130余年の青山学院の歴史は重要なものです。それを学び、そこに示されている神の恵みを思い起こすことが必要です。しかし、それは決して過去の伝統にただ回帰することではなく、先達たちがそうしたように常に「新しいことを行う神」に注目をし、その方向に共に歩んでいくことを意味しています。青山学院に入学し、また新しい学びを始めるということは、その「新しい人々」の一人になることです。

「見よ、新しいことをわたしは行う。」

今や、それは芽生えている。

あなたたちはそれを悟らないのか。」

この4月からの学びや研究の生活が、神によって祝福され、「新しいことの芽生え」を実感できるものであるように祈ります。

建学の精神の 具現化をめぐって

深町 正信

学院院長



日本の学校には大きく分けて国立、公立、私立の学校があります。そして、宗教系の学校と非宗教系の学校があり、その学校独自の、特色ある教育を行っています。私立学校の特色は、その学校の創立以来受け継がれている建学の精神が学校の教育の基盤となっていることにあり、それこそがそれぞれ私立学校の存在する意義であり、特色ある教育や個性的な文化や校風や伝統となっています。

企業はしっかりとした経営の理念がなければ、確かな会社の経営が成り立たず、企業間の激しい競争に勝てませんし、また、国際的に見ても、決して信用されないものです。私立学校の教育もそれと全く同じことが言え、建学の精神や教育の理念が明確でなければ、私立としての学校の教育は成り立たないのです。別な言い方をすれば、私立学校の目的は、建学の精神と教育の理念を具体的な教育活動を通じて実現していくことにあるのです。

したがって、私立学校の一つであり、キリスト教信仰を建学の精神とする青山学院に働く私たち教職員にとっては、創立以来132年間にわたり受け継がれてきたキリスト教信仰に基づく教育の意味を正しく理解し、それを日常の学校の教育と研究の仕事の中に具現化していくために、今こそ、いったい何ができるのか、また、何をしなければならないのかを具体的に考えることが、日常における働きに意味と生き甲斐を見出すためにも、何よりも大切なことなのです。

建学の精神は多くの場合、言葉で表わされた教育方針や学校の標語として受け継がれていますし、また、それぞれの学校の歴史の中で、自ら培われてきた言葉では表せない伝統や校風や文化として引き継がれてきたものもあります。それは学校のキャンパスを訪れた者に校舎や建物の佇まい、また、そこに生活する教職員や院生・学生・

生徒・児童・園児の日常の振る舞いや態度により、直接に肌で感じるものです。このようなキャンパス全体から受ける印象は、生徒や学生への雰囲気教育にとっても大切です。

建学の精神というものは単に理屈でなく、そこに生活する一人ひとりによって受け継がれてきたものです。さらに、校風や学風、伝統や文化というものも、私たちの日常の学びや仕事を通じて、そこに自然に滲み出てくるものであり、創られてゆくものです。一言で言えば、建学の精神とは、その学校の教育、研究、経営の営みの根底を地下水のように流れているものです。特に、キリスト教学校の建学の精神は、そこに学ぶ園児・児童・生徒・学生・院生の心を引きつけ、人格的な感化を及ぼす伝統や校風として生きていない限り、いくら立派なことが語られても、それだけでは絵空事に過ぎないことになります。

今日の日本では、すべてのことが画一化され、平均化され、個性が失われてゆく時代です。どの学校も立派な校舎が建ち並び、全国一斉にカリキュラム教育が行われ、国際化、情報化、技術革新、一貫教育と言われるような時代の風潮に乗って学校の発展を計っています。キリスト教学校がその流れの中で個性的な伝統や校風を失い、単に世間の評価の高い私立学校の一つになり、それで満足してしまっていることはないでしょうか。いわゆる有名な受験校の一つになってしまっているのではないかという心配です。

しかし、このような時代であればこそ、明確な教育の理念と個性を持つ私立学校こそが、そこに学ぶものに「わが母校」としての帰属意識を持たせ、特色ある人格形成をなし、その生涯変わることのない心の支えになるのです。私たちが良い意味で誇りをもって学び、また、そこに働く教職員が明確な教育方針のもとに教え、働くことの出来るような特色ある良き校風をつくりあげてゆくことこそ大切なことです。

そのことが、今日の学校教育がますます個性を失い、画一化してゆく中で、キリスト教信仰を建学の精神とする私立学校に働く私たちに、今、なによりも強く求められていることです。今こそ、私たちは学校の創設された原点に立ち帰り、その本来的使命を思い起こしつつ、21世紀に相応しいキリスト教学校を構築することを強く求められているように思います。

青山学院中学部を卒業し、音楽家として活躍された團伊玖磨氏は、かつて校友会の主催した母校での講演会で、自分の学んだ青山学院のリベラリズム、自由な校風こそが自分を含めてすべての人間を豊かに育ててくれたと述懐されました。



幼稚園の庭から

川島 祥子

幼稚園主事



新入園児の皆様、またご家族の皆様、ご入園おめでとうございます。幼稚園にお迎えできることをうれしく思います。暖かな春の季節、たくさんのおたまじゃくしなどの生き物たちがみなさんを待っています。

幼稚園では子どもたちが自分以外の子どもにも出会い、ぶつかりあったりしながら、他者の存在や互いの痛みを感じて、今まで一人では味わうことのできなかった心の世界が各々の中で広がっていくのです。幼稚園というところは人が人として成長するのに必要なことがある場所だと思います。

聖書に「人とは何者なのでしょう」という問いかけがあります。教育というものは、その問いに答えようとする営みといえるかもしれません。神は、土なるものに「神の息」を吹き込まれて人をお創りになりました。創造の動機は神の愛に他なりません。私たち自ら考え意欲をもってよいものを造りだし、他者とともに生きるようにされ、そして神の愛の中であって初めて本当の魂の平安と自由を得る存在として人は創られました。

混沌とした幼児の時代に、幼子が神様と出会い、人と出会い、感情や心が揺さぶられ喜びもまた葛藤も与えられて豊かに心が育っていくことは大切だと考えます。その大切なことが、幼稚園の庭から始まっていくことを、厳粛な思いで受けとめています。

大切なお子様たちをお預かりして、教職員一同、祈りつつ、かけがえのない子どもたちの日々が意味あるものになるように、たゆまず取り組んでいきたいと思っています。

幼稚園って、こんなところ！

松田 早苗

幼稚園教諭



ご入園、おめでとうございます。神様のお導きによって、皆様に出会えたことを大変嬉しく思っております。

卒園を控えた年長児に、「4月から小さい組になる人達に、幼稚園ってどんなところかお話したいから、年少組の時のことや幼稚園で楽しいことを教えてくれる？」と質問をしました。

☆年少組の時に嬉しかったことや楽しかったことは？

「ママが帰っちゃった後、先生が抱っこしてくれた」

「年少の部屋にある木の列車で遊んだことかな」

「お友だちがいっぱいできた！」

「ほくねえ、年長さんに‘かわいい’って言われた」

☆幼稚園で一番楽しいことは？

「タイヤブランコ！」

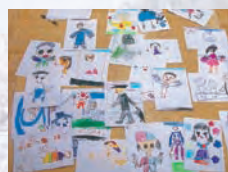
「おすもうさんと遊べる」

「どろだんご作り」

「積み木で遊ぶこと」

「・・・(しばらく考えて)全部楽しい！」

卒園児のメッセージから、園の様子が伝わりましたでしょうか？幼稚園での新しい生活の場が、お子様・保護者の方と共に成長する良き場となるよう、一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。



新入生の皆様へ

池澤 祥子

初等部教諭



しょうぶ、 げん気いっぱい！

こうだ りゅうせい

初等部 2 年



新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。ようこそ初等部へ。在校生、教職員は皆さんをお迎えできることを心から嬉しく思っています。

皆さんは、神さまから選ばれてこの初等部に入学してきました。これは、誰かが決めたことでも偶然でもなく、神さまが大きな力をもってお考えになったご計画なのです。きっと、楽しいこと、嬉しいこと、不安に思うこと、悲しいこととも出会うでしょう。それも、神さまが皆さん一人一人に必要な賜物として備えて下さるのです。どんなことにも神さまが共にいて下さいますから、恐れずに堂々と力強く歩んでほしいと思います。

初等部生のはじめの一步として「5 つのおやくそく」があります。

親切にします
正直にします
礼儀正しくします
よく考えます
自分のことは自分でします

これは一年生だけでなく、六年生までの間、更には大人にも大切な人生のお約束です。よく「初等部らしい子」と使うことがありますが、それは真にこの「5 つのおやくそく」を兼ねそなえた人のことを指しているといえるでしょう。神さまと人に愛される子どもとして、初等部らしい初等部生として歩んでほしいと思います。

常に神さまに祈りつつ、初等部ではじめの一步を共に歩んで参りましょう。

ほくの一しゅうかんは、きょうかい学校からはじまります。まいしゅう日よう日、いえのちかくにあるきょうかいにかよっています。きょうかい学校では、先生といっしょにせいしよをよんだり、さんびかをうたったり、こうさをしたりします。ほくがーばんすきなことは、おかしをたべながら、かみしばいをみることです。このまえ、イサクのおはなしをききました。きょうかい学校がおわるとみんなできょうかい学校のえんていで、おにごっこをしたり、てつぼうであそんだり、木のぼりをします。

しょうぶは、げん気いっぱい。ほくは、ずこうでおもいきり、えをかくのがたのしいです。みんなにどうやるか、いつもおしえてもらっています。たいいくでうまとびをするのがたのしいです。かん字をならって、いろいろないみがわかりました。おもしろいです。パートナーのおにいさんは、とてもやさしいです。

ほくは、七月になかよしキャンプにいきました。雨のえいきようでバスでいきました。カレーをいっぱい食べたたら、おなかがいっぱいになりました。バターづくりで、ペットボトルをふるのがむずかしかったです。げきを見ました。だい名は、「ノアのはこぶね」です。おもしろかったです。ソフトクリームが、おいしかったです。ろうそくをおいてから、おざわ先生にしんやくせいしよをもらいました。これから、大じにします。「かみさま、ありがとう」といのりました。

しょうぶに入れて、うれしいです。これからもみんな、なかよしで、しょうぶの生かつをたのしくつづけていきたいです。



新入生の皆様へ

加藤 敦

中部部教諭



新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。小学校を立派に卒業し、新しく中学校に入学。最初はわからないことも多く不安顔ですが、徐々に友達も増え、笑顔を輝かせていくあなたたちは、青山学院中部部の希望です。先輩たちの若い力にあふれる中部部に、新たな可能性を注ぎ込み、どんな1年生を過ごし、どんな2年生に成長し、どんな3年生として中部部を引っ張っていくのか、とても楽しみです。

今までよりもっと色々なことに挑戦できるでしょう。楽しい時間もあれば、そうでない時間もあるかもしれません。しかし、いつも心に留めていてほしいことは「神様はいつもあなたを見ておられる」ということです。中部部では、毎日礼拝の時間を持ちます。賛美歌や聖書の箇所につれ、さまざまなお話を聞き、神様や自分自身と対話をする時間です。その時間の中で、あなたは多くのものを学ぶことになるでしょう。思った事や感じた事、一つ一つの事から学んでください。きっと神様はあなたに進むべき道を示し、力を与えてくれます。

これから始まる3年間には、さまざまなことが待ち受けています。その中で、多くのことに挑戦し、多くのことを吸収し、立派な中学生に成長して下さい。あなたたちの才能を至る所で発揮し、輝かしい光の子として、中部部、そして青山学院を盛りたてていってください。

礼拝と私

脇屋 新^{あらた}

中部部学友会会長



みなさんご入学おめでとうございます。中部部では毎日、礼拝の時間を持っています。さて、みなさんは「礼拝」に出席したことがありますか？ また出席したことがある人は、「礼拝」とはどういうものだと思いますか？ 人によって礼拝についての考え方は違うと思います。中には礼拝と聞くと堅苦しく感じる人もいることでしょう。

僕は、礼拝とは一人になることだと思います。自分の日頃の行いを反省したり、聖書や先生のお話から色々なことを学んだり、一人にならないとできないことはたくさんあります。はくは幼稚園の時から11年間礼拝に出席してきました。そしてこの礼拝から学んだことは、現在とても役立っています。

たとえば聖書には、「人にしてもらいたいことは何でも、あなたがたも人にしなさい」という聖句があります。言葉にすると簡単ように感じますが、実際に行うには少し勇気が必要なこともあります。こうしたことを考えるチャンスを礼拝は僕に与えてくれていると思います。こうした意味で、僕にとって礼拝というものは大切なものになっています。

青山学院という学校は授業よりも、休み時間よりも、部活動よりも礼拝を大事にしています。

みなさんも中部部3年間の生活の中で、礼拝とは自分にとってどのようなものか、是非考えてみてください。一人になって…。



新入生の皆様へ

山田 徹

高等部教諭



新入生のみなさんへ

黒川 結^{ゆい}

高等部 HR105



「青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。

苦しみの日々が来ないうちに。

『年を重ねることに喜びはない』と

言う年齢にならないうちに。

太陽が闇に変わらないうちに。

月や星の光がうせないうちに。

雨の後にまた雲が戻って来ないうちに。」

(コヘレトの言葉 12:1-2)

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。

新たな生活の始まりは新たな出会いの始まりでもあります。これから皆さんは多くの人と出会うことでしょう。出会いは英語では“encounter”といいます。これは「反対の」という意味があります。つまり「出会い」には厳しく向き合うという意味が内包されているのです。「出会い」とは仲良く手をつないで一緒に歩くということより、両者が厳しく向き合うことによって真に知り合い、理解しあい、そして友人になるということなのです。このような「出会い」を通して「自分は何を土台に生きているのか」「自分は何のために生きているのか」という人生の大切な問いと真摯に向き合ってもらいたいと思います。神様はきっと皆さんのためにそのような素晴らしい「出会い」を用意してくださるでしょう。

これから始まる新たな生活の上に主の豊かな恵みと祝福がありますように！

ご入学おめでとうございます。今、皆さんは大きな喜びと希望に満たされる一方、新しい環境に不安を抱えていることでしょう。そこで、高等部生活をエンジョイするための秘訣を2点ご紹介します。

まず、だまされたと思って、クラブに入りましょう。文化祭では、HRの出し物以外にクラブの催し物もあるので、クラブに入っていれば文化祭を「2倍」楽しめます。一緒に泣いたり笑ったりしながら、一つの目標に向かって突き進む、部活動ならではの充実感も「2倍」です。

そして、高等部では毎日礼拝があります。聞き慣れない讃美歌や分厚い聖書に馴染みのない方もいるでしょうが、自分なりの楽しみ方を積極的に見つけましょう。例えば、好きなメロディーの讃美歌を覚えて、「My Best album」を秘かに考えるのも面白いでしょう。

私はハンドベル部とオルガン部に所属しています。私はクリスチャンではありませんが、どちらもキリスト教色の強いものです。入部の動機は、ベルの音色の温かさ、オルガンの響きの荘厳さに惹かれたからです。私は、青山学院生として、キリスト教の美しい音楽にたくさん触れたいと思っています。

高等部生でいられるのは3年間しかありません。高等部でしかできない貴重な体験・経験をたくさん味わって、有意義な3年間をエンジョイしてください。



良き師との出会いから

西 願 広 望

女子短期大学
教養学科准教授
宗教活動委員



新入生諸君には、良き師との出会いを通じて、キリスト教に親しんでもらいたいと思う。

僕自身がそうだった。母は人生で最初の師であったが、青学の中等部と高等部を卒業し、東京女子大に進学した彼女は、子供だった僕に、聖書の絵本を買ってくれた。

その後、僕は初等部に入学した。伊藤朗先生が絶妙なパフォーマンスでもって、宗教について分かりやすく教えて下さった。

中等部では笹森建美先生から教わった。笹森先生は聖書の先生であると同時に超心理研究会の顧問で、心理学の話が面白かった。

高等部で楽しかったのは、大村修文先生の礼拝だ。兎に角、笑えた。苦しいことが多い人生である。全く、礼拝ぐらい、歓びに満ちたものであってほしい。

大学では、東方敬信先生からキリスト教概論を教わった。東方先生のキング牧師の話に感銘を受けた。それから忘れられないのは、氣賀健生先生だ。氣賀先生から阿佐ヶ谷教会を紹介され、僕はそこで洗礼を受けた。氣賀先生から紹介されたのは教会だけでなく、泡盛も紹介して頂いた。タバコの煙が立ち込めた居酒屋で、泡盛を飲みつつ、先生は僕に人生と青学について語られた。

そして今、僕は短大で、僕の先生方と同じ様に、学生諸君と面白おかしくやっている。新入生諸君、リラックスして、キリスト教に親しんで下さい。

新入生の皆さんへ

貴 田 香 織

女子短期大学
専攻科児童教育専攻



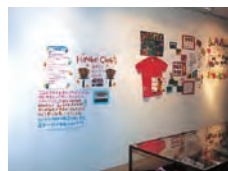
新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんと出会えることをとても嬉しく思っています。

青山学院女子短期大学は、自分のしたいこと、可能性に挑戦できる場です。是非皆さんも、この大学での生活を通して自分を見つめ、いろいろなことにチャレンジしてほしいと思います。

私は今、聖歌隊の一員として活動しています。青山学院女子短期大学では、年間を通じていろいろなキリスト教行事があります。私たちも礼拝奉仕をはじめ、たくさんの行事に参加させて頂いています。特にクリスマスの待降節に入る際に行われる点火祭は、とても印象深く心に残ります。初等部から大学までの人々が集まって行われる特別な礼拝ですが、大人数の歌とハンドベルと吹奏楽とが重なり響き合い、神聖な空気につまれます。また、一人ひとりがキャンドルを手に持った時に広がった輝きは、今も忘れられません。目には見えなくても、人はみんなそのようなキラキラしたものを内に持っているのだと感じました。

また、心の通う友達もたくさんでき、共に一つのものを作り上げる楽しさやまたしみじみと感じています。これからもその輪を広げてゆきたいと考えています。

自ら進んで行動することで、可能性はどんどん広がるものだと思います。皆さんも是非、私たちと一緒に楽しい大学生活を作ってゆきましょう。



青山学院大学に入学すること

武藤 元昭

大学学長



ヴィジョンを抱いて

山下 亮

大学国際政治経済学部
国際経済学科 3年



御入学おめでとうございます。多くの大学の中から、この青山学院大学に選ばれて入学されたことを、心からお慶び申し上げます。

申すまでもなく、青山学院大学はキリスト教信仰を土台に置く青山学院の一翼を担う大学です。入学式が礼拝形式で行われますことは、それを象徴的に示しています。ただ、新入生の多くの方は、この青山学院大学にキリスト教信仰を求めて入って来られたわけではないでしょう。それはそれで結構です。信教の自由ということもありますし、青山学院大学が新入生諸君にキリスト教を押しつけることもしません。しかし、青山学院には130年余の歴史の中で連綿として受け継がれてきた建学の精神があります。それがキリスト教信仰に基づくものであるのも事実です。スクール・モットーが聖書から取られた「地の塩、世の光」であることもその表れです。「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」にも濃厚にその建学の精神が反映されています。

現在、全ての大学は大学独自の建学の精神を強く求められています。多くの大学の中で、己れの存在意義を示すのが建学の精神だからです。その意味で、青山学院大学はしっかりしたものを堅持していると言えます。

新入生の皆さん、折角青山学院大学に入られたのですから、是非本学の教育の根本となっているキリスト教に触れてみて下さい。豊かな学生生活を送られますように。

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

突然ですがみなさんに質問です。みなさんは一体何のためにこの青山学院大学に入学しましたか。今この場にいる目的や将来的なヴィジョンというものは抱いていますか。恐らく私自身がそうだったように、みなさんの多くは、この4年間でその目的や自分のやりたいことを探していくことに期待をしているのではないのでしょうか。確かに大学でやりたいことを探していく、というのはとてもポジティブなように思えますね。しかし、実際はどうでしょうか。明確さには個人差があるといっても、ヴィジョンを持たずしてやりたいことを探すということは予想以上に大変なことではないかと思います。

私自身、大学入学時には二つのヴィジョンをもっていました。一つ目は将来何らかの形で発展途上国に携わる仕事がしたいということです。もう一つ大きなヴィジョンがありました。それは、「神のために」ということです。私はクリスチャンであり、神が私を創造して、私に何らかの目的を与えられていることを確信しています。そんな神が喜ばれるために、私は今与えられている勉学や所属する青山キリスト教学生会での活動に励んでいます。

皆さんは、どんなヴィジョンを抱いて入学されましたか。それぞれにヴィジョンや志を高く掲げて、どうぞすばらしい学生生活を送ってください。皆さんの歩みの上に神様の祝福がありますように、お祈り申し上げます。



『O・ヘンリ短編集 (一)～(三)』

大久保康雄 新潮文庫

篠原 基

中等部教諭

O・ヘンリといって皆さんはどの話を思い浮かべるでしょうか？

やはり有名なのは『賢者の贈りもの』でしょうか。若い夫婦アラとジムが貧しいながらも互いのことを深く思い、ある年のクリスマスプレゼント代を手にするために、自分の一番大切なものを手放してしまう話です。結局、贈りあったプレゼントは「物」としての価値を持たないものでした。しかしそこに込められた心の交換こそが、なによりの『賢者の贈りもの』になったというお話です。

またある方は、『最後の一片』を思い出すことでしょう。ヘアマン老人が肺炎を患う若い芸術家スウのために描いた命がけの作品。それは作品というより、大きなメッセージであり、命という大切なバトンだったのかも知れません。

人と人との絆は、このように何かを通して心を通わせることができたとき、得も言われぬ温かな気持ちを起こさせてくれるものです。物語には書かれていないアラとジムの幸せな夫婦の歩みを、病気を克服し元気に創作を続けるスウの姿を、きっと誰しもが想像したことでしょう。しかし残念ながら、人の思いというものは必ずしも相手に伝わることばかりではありません。と言うよりは逆に伝わらないことの方が多いのかも知れません。私が皆さんにご紹介したい話はそんなちょっと寂しいお話です。

題名を『善女のパン』というその話の主人公はミス・マーサ・ミーチャムといい、本文を引用すると「ことし四十歳、銀行通帳には二千ドルの預金があり、二本の義歯と思いやり深い心を持っていた。ミス・マーサよりも、もっと結婚のチャンスに恵まれない人でも、結婚しているものが、世の中にはたくさんいる」という小さなパン屋の女将さんです。彼女は心を込めて思いを寄せる男性にあることをしました。(是非皆さんにこの作品を読ん



で頂きたいのでタネ明かしはしません)が、その気持ちは通じるところかその男性を激怒させてしまいました。彼のために用意した「水玉模様の絹のブラウス」も着られずじまい。これだけお話しすると単なる間抜けな笑い話に読めるかもしれません。

実際彼女は少し早とちりのお節介者ではありますが、私は彼女にこう声をかけてあげたいのです。「気にすることはない。精一杯やったじゃない。きっとまたその絹のブラウスを着られることがありますよ」と。なぜならこの話を読むごとに、ベタニアで香油をかけられたイエス様のお話(マルコ 14:3～9など)を私はいつも思い出すからです。一人の女性が心を込めてイエス様に行った行為を、同行していた弟子達は責め立てます。しかしイエス様だけがその真意をくみ取り、優しくこの女性に語りかけ手をさしのべてくださったというあの一節です。ミス・マーサは意中の男性には激怒され、きっと周りからは笑われたことでしょう。ただ一人イエス様を除いては。そしてこの物語を読む多くの人々にも、きっと彼女は優しく迎えられるはずで。そんな、イエス様の愛のまなざしとほんの少しでも同じ視点に自分を置けるこの話が私はとても好きです。

この地上は、主の愛に満たされ創り出されています。そこから生まれる文学作品の中にも同じことです。そのような主の愛を感じながら文学作品を読めたならば、どれだけ喜ばしいことでしょう。——『O・ヘンリ短編集』——読んだことのない方はもちろん、既に読まれたという方も是非手にとってみてはいかがでしょうか。

青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料

その 19 — 来日宣教師の報告書・書簡等(続) —

氣賀 健生

大学名誉教授

青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料紹介第 19 回は、来日メソヂスト宣教師の本国宣教局への報告書・私的書簡の紹介(続き)です。今回は Soper, Chappell など、主として明治初期に来日し、伝道・教育に盡した人物のものをとりあげます。



Julius Soper

まず Julius Soper. 最初のメソヂスト宣教師団の一人として 1873 年来日。日本滞在の最初の 10 年間に、青山学院創設期の重要人物津田仙夫妻とその子供達をはじめ約 400 人に洗礼を授けました。(Soper については『青山学報』No.169・1994 年参照)。津田仙と協力して青山学院前身の耕教学舎＝東京英学校を創設し、また銀座教会、九段教会等の設立にも重要な役割を果たしました。1901～08 年には青山学院神学部長をつとめています。日本滞 38 年間に彼が送った報告書のうち 31 通が資料センターにあります。その約 2/3 は手書きですが大変読み易い筆蹟で書かれています。報告書の大部分は宣教と教育に関するもので、例えば青山学院の学生の間で素晴らしい祈りの運動が盛んであることを述べ、「何人もの学生が回心して信仰を新たにしました。彼らの上に神がなし給うたことを聴くのは輝かしい“古き良き時代”を思わせる。長い間このような希望に満ちた光景を見たことはない。このリヴァイヴァルが日本中に広まらんことを」と結んでいます(1900.2.6 付)。またプレスビテリアン(日本基督教会)との伝道競争の様子や、公立学校に青山学院卒業生の英語教師を送り込む運動、メソヂスト・ミッション三派(カナダ・アメリカ北部・南部)の神学教育の合同の状況、北海道の中をかけめぐった伝道の様子など、こまごまと書かれています。更に或る宣教師達の会計の濫用や私的品行の問題、特定の宣教師の存在が重荷となっていることなども詳細に報告されています。

1899 年 9 月 25 日付の報告書では、文部省訓令 12 号事件について触れています。Soper

は「文部省が宗教教育を認めないと言うなら、我々としては、何時でもアカデミー(中学校)を閉鎖し、カレジ、神学校ともにこの度の学校教育規制にわずらわされず、私立学校として生きて行くだけのこと」と毅然としています。然し、1901 年 5 月 10 日付の報告では「約 2 年前に文部省の訓令によって強制されて我々が放棄した特権が回復された」と述べ、「卒業生が公立の上級学校へ行ける、その上、公立学校と同じく、我が学校に於ても徴兵延期の特権が 28 才まで認められた」として「これらはもうひとつの勝利である!」と喜んでいます。

この訓令は 1899 年 7 月 3 日、文部省が突如として公布したもので、公認の私立学校に於ては、今後の宗教教育及び礼拝などの宗教儀礼を行なってはならない、もし敢て行なう場合には公認を取消して各種学校に格下げし、徴兵延期、公立上級学校・大学への進学資格などの特権を剥奪する、というものでした。これは長年の懸案であった治外法権撤廃などの条約改正が締結され、7 月 4 日に宣教師などを含む外国人内地雑居が実現されることになり、折角根づいた教育勅語などが打撃をうけるのではないかと恐れた文部省が、発効の前日の 7 月 3 日に公布したものでした。これは明らかにキリスト教学校を標的にしたもので、当時のキリスト教学校の指導者が集まって文部省に抗議陳情を重ねました。官憲の強腰にも拘らず、やがてその効力は一掃に消滅します。当時立教学院にあってこの難局と戦った元田作之進(のち初代立教大学学長)と共同で本国の宣教局に書き送った David Spencer(1883～1928 年滞日。現在の教文館の土地を取得してキリスト教出版事業に大きな行蹟を残し、またキリスト教入門に関する著書翻訳書多数)の報告書によれば「本当の問題は個々のミッションや教会ではなく、すべてのキリスト教機関である。訓令はすべての宗教に及ぶという立前だが、文部省高官から聞いたとこ



David Spencer

ろによれば、意識的にキリスト教の制限を目的としている。然もそれは仏教側からの示唆なのだ。憲法で宗教的自由をうたっている政府が、実際は制限や指令を通してキリスト教からそれを取上げようとしている」ということでした。

Spencer の他にもこの文部省訓令 12 号事件については多くの宣教師がその報告書に於て言及しています。一例として Benjamin Chappell の Cranston 監督にあてた書簡 (1899.11.13 付) をあげておきましょう。彼は「もし来年の 4 月に学生募集をするなら、政府の許可なし



Benjamin Chappell

のまま行なうより方法はない」と言っています。この書簡の末尾に、「アメリカ公使館から 10 月 4 日付で秘密の手紙がとどいている筈だが、宗教教育はすべて不可というのは翻訳の誤りではなく、本当のことで、公使館と文部省との間で何かゴタゴタがあったらしい」と記しています。Chappell は 1889 年に来日。滞日中全期間を青山学院で奉仕し、1918 年に公式には引退しましたが、学院内に居住し、学生達との生活を楽しんでいました。1925 年 4 月 24 日心臓発作で急逝し、遺霊は青山霊園に眠っています。彼の手書き書簡は恐ろしく癖のある書体で読みにくいこと夥しいものですが、当時の青山学院の教師、本多庸一、石坂正信、和田正幾の名をあげて、特に和田正幾は著名な学者で良き教育者であると評価しています。Chappell の書簡をもうひとつあげておきましょう。彼は Carroll (メソヂスト宣教局総主事) 宛にこう書いています。(1901.5.9 付)。「一年以上前に、多くの日本のキリスト教学校は宗教教育を規制されました。然し宗教教育をあきらめるよりは、公認を取消されてもこれを守るとをえらびました。このために卒業生は公立の上級学校へ行けないし、大学も不可ということで、生徒数も減りました。然る所、文部省はこの度特権回復を認め、公認の学校に戻ったのです。加うるに宗教的自由を認めたのです。2 年前とは大違いです。これで入学者は既に 2 倍になりました。戦いが既に終わったことは明らかで、150 人の学生

はまもなく 500 人になるでしょう」。

訓令 12 号事件関係はこの位にして、次にヘッケルマンの北海道伝道の報告を見ましょう。Frederick W. Heckelman は 1906 年 来日。「赤い靴」の歌で親しまれた女の子をつれて帰ったとされる(実際は鳥居坂教会の孤児院にあずけられた)前



Frederick Heckelman

任の Charles Huett の後任として 1908 ~ 23 年の 15 年間北海道の僻村各地に伝道しました。「トテツもない広さで、週 4 回巡回伝道をしています」と宣教本部主事の Leonard に報告しています。「北海道では小樽が最も重要な都市で、ここには既婚者の男性宣教師を一人派遣してほしい、大都会では既婚者であることが必須条件である」と書いています(1908.8.17 付)。1908 年 12 月 8 日の札幌からの報告によれば「今、北海道では曾てないリヴァイヴァルで、25 人ほど 5 カ月以上切れ目なく朝 5 時から祈祷会が行なわれ、既に 16 人受洗し、20 人以上が機会を待っているが、殆ど若い男ばかりで、日本では曾て見たことがないほど教勢が拡がっている。今年函館に 3 教会を建てた。日本で最大の地方区で Missionary Work の場は沢山ある。冬は長いが伝道には良い所で、私は日本語で伝道している」と意気盛んです。Heckelman は 1923 ~ 41 年には青山学院神学部教授として、多くの神学生を育てています。

最後に、冒頭にあげた Soper に関連して、ひとつ新しい史料を紹介しておきましょう。2002 年に、宣教師 Soper の孫に当られる方が青山学院を訪問され深町院長がお目にかかりました。Prof. Davidson Soper は、Oregon 大学の Institute of Theoretical Science の教授です。その時 “Private Journal of Julius Soper” のコピーを戴きました。January 2nd, 1868 ~ October 8th, 1877 の分で、筆者もまだ読んでいないので、内容はわかりませんが、Soper 来日以前からのもので、来日の動機等もわかるのではないかと興味をそそられます。現在これは相模原キャンパスの資料センターに保管されています。(以下次号)

日本イエス・キリスト教団 東京若枝教会稲城伝道所

加藤 幸

初等部保健室

「えっ、こんな所に教会が？」

初めて訪れる人は皆さん驚かれるようです。それもそのはず、私の教会はマンションの一室にあります。今から7年前に東京都西東京市にある日本イエス・キリスト教団 東京若枝教会の伝道所として開設され、長谷川義朗牧師ご夫妻が牧会されました。東京都で一番キリスト教会の少ない稲城市を開拓伝道の土地として選ばれたのでした。

稲城市は、現在、新築のマンションが立ち並ぶ人口増加の著しいニュータウンですが、7年前は夜になると灯りもまばらな山林でした。まさにゼロからのスタート。私たち家族はポスティングされた1枚のトラクトに導かれ礼拝に通うようになりました。私たちは伝道のために市のホールを借りて著名な音楽家を招いてのクリスマスコンサートや、近隣へのトラクト配付。教会の存在を知らせることが私たちの大切な使命と今日まで活動してきました。今では教会員も十数名に増えました。

しかしながら、教会の体である会堂がないということは大きな壁となっていました。キリスト教会があると知った近隣の人々も、教会がマンションの一室だと知ると礼拝に来るのを躊躇されてしまうのでした。私たちは会堂が与えられるようにと祈り続けました。

そんなある日、奇跡的な出来事がおこります。稲城にきた当初から「この土地が手に入れば……」と眺めていた畑の地主さんに



長谷川牧師は散歩の途中で偶然出会います。そこでの立ち話のなかで教会用の土地を探していると告げたところ「畑をつぶして売りましょう」と言ってくださったのでした。

私たちは、会堂建設のために動き始めました。乗り越えなければいけないハードルは、たくさん。もっとも高いハードルは、経済面です。何しろ十数名しか教会員はいないのですから。

しかし、神様は次々と私たちに奇跡を見せてくださり、何とか土地購入の目処がたちました。少ない予算での会堂建設は困難なことばかりですが、一つの教会を建てるという大きな恵み、歴史的瞬間に立ち会える喜びを胸に心をついにしてがんばっています。

新会堂にと、初等部の旧礼拝堂で使っていた椅子も数脚献品していただきました。初等部の椅子がまた私たちの教会で新しい歴史を刻んでいく……。とても素敵なことだと思いませんか？

今秋には新会堂が完成する予定です。ぜひお立ち寄り下さい。初等部の椅子に会いに来たい方もぜひ！この小さな教会の経済が支えられ、稲城の地に十字架の掲げられる教会堂が無事建設されますようにお祈りください。



東京都稲城市長峰 3-2-4-209

TEL/FAX 042-331-4430

http://www.geocities.jp/inagi_oasis/

幼稚園 より

進級した期待と不安が入り混じる子どもたちです。神様がいつも共にいて下さることを感じつつ毎日を過ごして欲しいと願っています。

始業礼拝

4月6日（金）

神様への礼拝から新しい学期が始まります。

入園式

4月11日（水）

新入園児と保護者の方々を迎えます。礼拝やお祈りを初めて経験する子どももいます。

イースター礼拝

4月13日（金）

イエス様の復活をお祝いし、それぞれの年齢に応じて復活の出来事を心に留めます。

母の日礼拝

5月11日（金）

大好きなお母様をお迎えして共に礼拝を守ります。お母様に感謝し楽しく過ごします。

ファミリーデー

6月9日（土）

保護者の方々と共に礼拝の時をもち、与えられた力を出し合って活動する一日です。

終業礼拝

7月13日（金）

毎日を神様の守りのうちに過ごせたことを感謝し、一学期を終えます。

（教諭 生沼晴美）

初等部 より

3月13日（火）に献堂式を終えた新礼拝堂「米山記念礼拝堂」で最初の入学式を終え、新しい1年が始まりました。初等部の建築は残すところ校庭の整備となり、9月にはすべてが完成します。

1年生保護者向けキリスト教教育オリエンテーション

4月9日（月）～11日（水）

初等部に入学された保護者を対象にキリスト教教育について3回にわたってお話をします。キリスト教教育の概念から日常の生活で大切にしたいことを具体的に説明をします。

イースター礼拝

4月10日（火）

教会暦では4月8日（日）がイースターです。

初等部でも主イエスの復活を覚えて礼拝を守ります。礼拝の後で、イースターエッグをいただきます。

お母さんへの感謝の集い

5月15日（火）

5月の第2日曜日に守られる母の日を覚えて、礼拝を守ります。

（宗教主任 小澤淳一）

中等部 より

春のCF（クリスチャン・フェローシップ）ワーク

4月6日（金） 10:00～11:30

内容：校内清掃など

入学式

4月7日（土） 9:00

春の教職員修養会

4月7日（土） 13:30～15:30

講師：長谷川洋介（日本基督教団小平教会牧師）

講演題：「私の見た沖縄、私を育てた沖縄」

イースター礼拝

4月20日（金） 10:05～10:40

説教：寺田信一（日本基督教団海老名教会牧師）

母の日・家族への感謝の日礼拝

5月9日（水） 10:20～12:00

奨励：湊 晶子（東京女子大学学長）

礼拝の後、生徒による楽器演奏や作文朗読、カーネーションの贈呈が行われます。

保護者聖書の会

毎月第4水曜日 10:50～12:00

（宗教主任 西田恵一郎）

高等部 より

入学式、始業式

高等部は4月7日（金）に入学式を行い、新入生を迎えます。

9日（月）に新入生オリエンテーション、10日（火）全学始業式、またオリエンテーションが行われます。11日（水）は全学年英語テスト、生徒会による新入生歓迎会が行われ、12日（木）から授業が開始されます。

イースター礼拝

4月11日（水）

今年のイースターは4月8日の日曜日です。高

等部では11日にキリストの復活を祝って特別礼拝を行います。講師は野村祐之先生（14期生、青山学院女子短期大学講師）です。

保護者聖書の集い

今年度も保護者の方々のための「聖書の集い」を毎月一度持ちます。聖書に初めて触れる人たちの会です。保護者であれば誰でも参加できます。具体的な日時は「高等部便り」でお知らせ致します。青山学院教育方針の基本にある聖書を学び、心の糧としていただきたいと思います。

（宗教主任 坂上三男）

女子短大より

キリスト教同盟校推薦入学生歓迎会

4月3日（火） 11:30～12:30

女子短期大学礼拝堂

始業礼拝

4月4日（水） 10:00

説教：宣教師 ロバート・タヒューン

青山学院講堂

宗教活動委員会 春の研修・親睦会

4月21日（土） 10:00～15:00

女子短期大学校舎

チャペル・ウィーク

5月21日（月）～25日（金）

宗教講演

5月23日（水） 12:30～13:20

女子短期大学礼拝堂

前期チャペルコンサート

5月25日（金） 12:30～13:20

女子短期大学礼拝堂

サマー・キャンプ・イン軽井沢

8月1日（水）～3日（金）

女子短期大学中軽井沢寮

（宗教活動委員 西願広望）

大学より

キリスト教推薦入学生オリエンテーション

4月4日（水） ガウチャー記念礼拝堂

キリスト教概論Ⅰオリエンテーション

4月6日（金）～4月10日（火）

ウエスレー・チャペル

新入生歓迎礼拝

・相模原 4月11日（水）～17日（火）

・第二部 4月17日（火）

チャペル・ウィーク

5月21日（月）～26日（土）

バッハ・コレギウム・ジャパンコンサート

6月15日（金） ガウチャー記念礼拝堂

宗教センター・グループ活動について

○「青山学院大学聖書研究会」（宗教主任担当）

わかりやすく、楽しく聖書が学べます

○「フォーカス・グループ」（キリスト者教員担当）

文学、自然科学、社会問題、音楽などとキリスト教信仰とのかかわりにおいて語り合い、考え合います。

詳しくは『キリスト教活動のしおり』、『Kairos』をご覧ください。

（宗教センター 平野修一）

本部より

教職員新学年度礼拝

4月6日（金） 16:30～

ガウチャー記念礼拝堂

説教 東方敬信 大学宗教主任

（宗教センター 平野修一）

編集後記

また今年も多くの新入生を迎える。4月には我々教職員も気持ちを新たに整えてすべてをリセットする。同じ瞬間は二度とないし、再び同じ新入生を迎えることもない。ともかく4月にはすべてをリセットできる。人生をもう一度リセットして新たな歩みを始めることが可能にされる。リセットすることを忘れた人生は暴走するしかない。Re-set、それはもう一度セットしなおすことだ。この4月、私も青山学院ももう一度キリストのもとにセットしなおすときとしたい。青山学院の今年度のすべての歩みの上に、神の祝福をとみに祈ろう。（伊）

Wesley Hall News 第92号

発行 青山学院宗教センター 宗教部長 東方敬信
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-6537（ダイヤルイン）
URL.<http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html>
E-mail.agcac@jm.aoyama.ac.jp
編集 ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会
印刷 万全社